

教科化に向けた「読む」「書く」にも重点をおいた取組事例

島根県雲南市立吉田小学校・田井小学校

取組のねらいと内容

○英語の語順のきまりに気付き、児童が日本語の語順と比べて考えてみることで、言語に対する感覚を豊かにすることができる。

児童は、低学年の国語科の学習で主語と述語について学習し、その学習を基礎として、中学年で修飾と被修飾との関係など、文の構成における修飾語の役割について学習している。そのことを生かして、英語の語順に気付かせる。

児童が国語科での既習内容との比較を通して、日本語と英語におけるそれぞれの言語の特徴や仕組みに触れながら、児童の言語そのものへの気付きを大切にしたい。

【板書例】語順への気付きより

文部科学省補助教材「Hi, friends! Plus」及びワークシートを活用

成果

・小学校の高学年になると、文構造や語順について分析的に捉える力も育ってくるため、こうした取組は児童の知的好奇心を刺激し、物事を論理的に思考しようとする習慣を身につけるきっかけとなる。

・ここにあげた例だけでなく、SVOとSOVの違いも児童にとってはわかりやすい。こうした構造上の違い等に早い時期から気づかせることで、中学校での論理的な学習にスムーズにつながる事が期待される。

・また英語の文構造や語順について日本語と比較して考えることで、国語で学習した知識が生かされ、国語学習への意欲を高めることにもつながることが期待される。

・例えばこの学習をとおして、日本語の助詞に興味を持つ児童も現れ、日本語は助詞によって文のニュアンスが変わることに気がつく児童もいた。



課題

・小学校の教員が外国語教科化にむけて適切な指導を行うためには、文構造などについての知識・理解が不可欠であり、教員同士での指導方法の共通理解(児童にノートをとらせるべきか、見せるだけで終わらせるか等)や、英語指導等に関する研修が必要である。

・日本語の場合、助詞の変化により意味やニュアンスが変わることもあり、英語と日本語の文構造等の違いを深ぼりすぎると、本来の外国語学習の目的を逸脱しかねない。(例えば、「たかが〜」と「たくは〜」ではニュアンスに違いがあることなど)

・小学校における教科としての外国語では、「英語と日本語の音声それぞれの特徴や、文構造への気付き」を促すことが、中学校外国語での学習につながるが、それぞれの特徴や文構造についてどの程度まで扱うか、今後更に検討する必要がある。

平成27年10月28日現在

短時間学習に関する取組事例①

秋田県由利本荘市立由利小学校

取組の内容

- > 対象・頻度: 1~6年 週1回(金曜1時間目開始前)
- > 実施時間: 23分(1/2単位時間)
- > 指導者: 1・2年...ALTと学級担任
3・4年...学級担任
5・6年...学級担任と支援担当職員
- > 指導内容:
1~4年... 身体の一部や挨拶などの身近な語句や表現に慣れることをねらいとしたゲーム、チャンツ等
5・6年...アルファベットの練習、家族紹介文の作成等、書くことに関する内容

※授業時間外に短時間学習を位置づけ、5・6年生は45分の授業の補助的内容を指導

成果・効果

- ・授業の充実に向けた内容を扱い定着を図ることにより、授業におけるコミュニケーション活動が充実し、「できた」「わかった」を児童一人一人が実感できるようになってきている。
- ・英語による自己紹介や家族紹介など目的意識をもった活動により、主体的な学びの様子がみられる。



課題

- ・書く活動を行い、定着を図りたいというねらいはあるが、ドリル的な活動しすぎると英語に抵抗感を示す児童が出てくるのではないかと懸念される。

山形県鶴岡市立朝陽第五小学校

取組の内容

- > 対象・頻度: 3・4年...週3回、5・6年...週3~4回
- > 実施時間: 15分
- > 指導者: 3~6年全て担任主導で指導しているが、担任以外も含め全教員がモジュール学習に参加し、全校体制で取り組んでいる
- > 指導内容:
3~5年... 単語が添えられた絵カードを見ながらジェスチャーも交えて発音するなど、英語の音に慣れ親しむ活動
6年... 上記に加え、「Hi, friends! Plus」ワークシートを活用したアルファベットの練習等、書くことを含めた活動

※授業時間内に短時間学習を位置づけ、5・6年生は45分の授業の導入や繰り返し学習を中心に扱う

成果・効果

- ・週に3~4回英語に触れることで繰り返し学習ができ、定着が図れる。また、ALTに臆せず話しかける姿が、どの学年においても見られるようになった。
- ・子供たちの実態・願いをよく知っている担任だからこそ、目の前の子供の姿から授業を作ることができる。

課題

- ・15分といえども、毎日のようにある外国語(英語)の教材研究は大変である。(教材は担任を持たない外国語教育推進担当が作成)
- ・単にゲームが楽しいという状態に陥らないように目標を明確にし、こうなってほしいという子供の姿を褒めながら価値づけしていく必要がある。
- ・短時間学習の評価をどうするべきか考えていく必要がある。

短時間学習に関する取組事例②

京都府光華小学校

取組の内容

- >対象・頻度：3～6年 週5回
- >実施時間：9分
- >指導者：学級担任
- >指導内容：
 - 3・4年... 英語の音やリズムに慣れ親しむことをねらいとした週ごとに同じ内容を繰り返すゲーム、チャンツ 等
 - 5・6年... 身近なフレーズを寸劇の中で用いる「一言English」やアルファベットの練習等書くことに関する内容
- ※授業時間内に短時間学習を位置づけ、5・6年生は45分の授業の最終タスクに向けての語彙学習を中心に扱う

成果・効果

- ・毎日、習慣的に英語を使う機会を設けることで、**学校内で英語を使う意識が高まってきた。**
- ・児童からは「毎日学級担任と英語を学ぶのが楽しみだ」という意見や英語係を中心に進めている「寸劇やチャンツなどが非常に楽しい」という前向きな意見が多い。
- ・短時間学習で学んでいる語彙については、インタビューテストをしたところ、非常に定着率が良かった。

課題

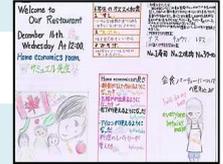
- ・現在は英語専科が中心となって全学年の指導計画作成・教材開発を進めているが、児童の実態をよく知る学級担任の役割を任せていく必要がある。そのためには、**各教員のスキル向上**に努めていかなければならない。
- ・児童中心の活動もより多く組み込めるように工夫をし、**児童と学級担任が丸となって学びを進めるような体制を整えていきたい。**

徳島県阿波市立伊沢小学校

取組の内容

- >対象・頻度：5・6年 週3回
- >実施時間：15分
- >指導者：主に学級担任が担当。必要に応じてJTEとのTT。
- >指導内容：オリジナルの絵カード作り、「Hi, friends! Plus」ワークシートを用いた文字学習等
- ※授業時間内に短時間学習を位置づけ、45分の授業内容と関連したこと、及び学校行事や他教科等と関連した活動を行う

家庭科との関連活動で作成したALTあての調理実習招待状→



成果・効果

- ・45分の授業の補足的な学習にも充てることができており、**定着が不十分であったと感じるところを重点的に学習することができた。**
- ・単元学習後の振り返りシートからは、**英語表現が身に付いたと回答した児童が9割を超えていた。**
- ・学校行事等と関連させた学習内容に取り組み、学習した表現を生かす場面を教育活動全体で多く作ることができた。

課題

- ・学級担任主導で進めており、**年間を通したモジュール学習の計画立案や朝の時間の準備が大変である。**
- ・英語のモジュールをすることで他教科の補足的な学習等の学習時間が減っている。

言語能力を効果的に高めるための外国語教育と国語教育の連携に関する取組事例

宇治黄檗学園宇治市立宇治小学校

取組のねらいと内容

- ①日本語と英語の共通点と相違点など児童・生徒の「ことばへの気付き」を大切にすることで、言語への関心意欲を高める
 - ・音と文字の結びつきや音素・アクセントを意識した指導・ヘボン式ローマ字指導・発音記号指導を実施し効果を検証。
 - ・英語・国語に共通している、あるいは連携が可能な教材・タスクを精査しシラバスで明確化した上で(図1)、互いを意識した指導を実現。
- ②多様な他者の考えや立場を理解し相手の意見を聞いて、自分の考えを正確に伝える力の育成
 - ・「ことばの学び」という広い視点から、教員・児童生徒が感じる課題点とそこから明らかになるニーズを分析して共有することで、あらゆる教育場面でことばの学びを意識した指導を実現(図1)。
 - ・各教科等において、教科等の特性を生かしたことばの学びにおける重点を決定し、多角的に児童生徒を育成。

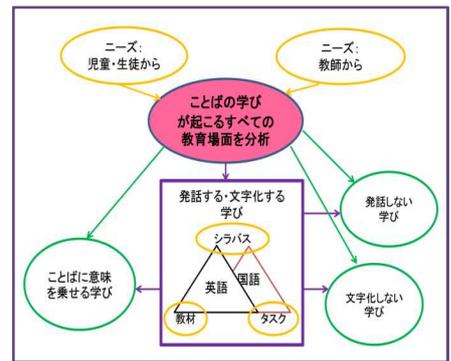


図1

成果・効果

- ①国語・英語におけるCan-Doリスト、国語・英語を併記した一貫カリキュラム(関連性を可視化)を作成
 - ・音素・アクセントを意識した指導の結果、小学校高学年の音素・アクセント感覚が有意に向上
 - ・ヘボン式ローマ字・発音記号の教材を作成し、現在小学3年生・中学1年生にそれぞれ指導中(年度末に効果検証予定)
- ②アンケート・KI法などを通じた教員、生徒の声による定性的データの抽出
 - ・得られたデータをもとに、あらゆる教育場面におけることばの学びを系統立て(図2)、小中の全教員が共通した視点でことばの学びを意識

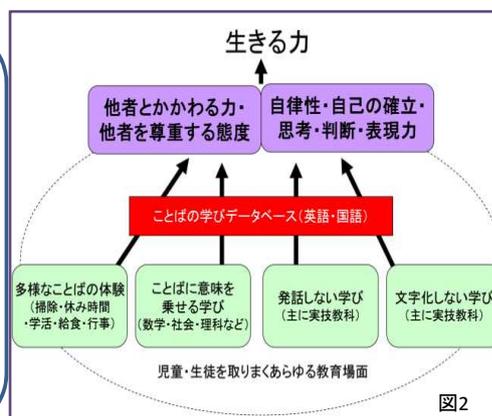


図2

課題

- ・ことばの学びの必要性については、どの教師も感じているところではあるが、ことばをどのように意識していくかは、個人によってかなり捉え方に開きが見られる。**教科・領域の特性を生かした「ことばの学び」をどのように深めていけばよいか具体化できていない現状がある。**今後、より学びを深めていくためにはどのような手立てが必要になってくるのか検証していかなければならない。
- ・現状では、まず日本語で自分の意見が言えることを第1段階の目標とし、第2段階として英語で自分の意見を言えることを目標としている。

絵本を活用した取組事例

千葉県流山市立南流山小学校

取組のねらいと内容

- ある程度まとまりのある英語を聞くを通して、英語特有の音・リズム・抑揚などに触れることができ、英語の文構造に無意識のレベルで触れることができる。
- イラストと理解可能な言葉ヒントに、前後関係などから未知の表現や語彙の意味を類推・推測する力や大意をつかむ力が育つ。
- 日本の絵本にはあまり扱われないモチーフやイラストに描かれる事物・自然・建物・衣服・生活習慣などを通して、異文化に触れ、異文化への興味・関心が高まる。
- 外国の民話など、その国特有の物語の展開を通して、異なる世界観や価値観に触れ、無意識に異文化の深層に触れることができる。
- 中・高学年になると文字に関心が向けられるようになり、音と文字のつながりにも興味・関心が高まる。また、文字を意識しながら、指導者について何度も繰り返しているうちに、次第に音読の力が付く。
- 絵本にはメッセージ性の高いものも多く、心の成長を助ける。

《留意点》

- ・発達段階、興味・関心に合った内容の絵本を選択する。
- ・1ページの語彙が多すぎず、意味理解のヒントになる分かりやすいイラストのものを選ぶ。
- ・指導者が読み聞かせに不安があるときは、付属するCDを活用したり、ALTや外国語が堪能な人に頼むとよい。
- ・指導者による読み聞かせを十分に行うとともに、児童とのやりとりを通して絵本の内容を十分に理解させる。そうすることで、児童が絵本にある表現を言い出すようにしたい。
- ・ページをめくる前に、次に起こることを予測させたり、読み終わった後に登場したものの内容をたずねたり、インタラクティブに進める。

成果

・補助教材の「This is ME!」を一人一冊の絵本にして活用することで、デジタル教材の音声で十分慣れ親しんだ語や文を視覚的に捉えることができた。また、絵本を手元に置いたことで一人一人が文を指で追いつながりながら読み進めることができ、文章中の記号や読み方に気付かせたり、内容に合わせた発音をしったりすることができた。

・「This is ME!」の登場人物に共感しながら読み進めることで、児童の「自分にもできることがある」という自己有用感を高めることができた。

・絵本の内容をもとに、自己表現の活動に発展させることができた。



課題

・今回は教材に合わせ、デジタル教材が用意されており、音声面での心配がなかった。今後、その他の絵本を教材として活用するためには、児童による一部くり返しができるように間があったり、一文ずつ停止させることができたりする音声教材を用意する必要がある。

・補助教材の「This is ME!」を校内で印刷し一人一冊の絵本にして活用することで大きな成果があった。今後市販の教材を利用する場合は、著作権等の関係で複製等ができないと思われる。一人一冊手元に置いての学習は難しい。

・絵本の読み聞かせでは、動作を加えたり、児童に問いかけたりしながら、絵本の世界に引き込んでいく工夫が必要である。指導者自身がその力量を付けるために研修を重ねることが肝要である。

平成27年10月28日現在

言語能力を効果的に高めるための外国語教育と国語教育の連携に関する取組事例

京都光華中学校

取組の内容

➢ねらい:「聞くこと」「話すこと」「書くこと」について国語科での取組を知り、連携していくことで英語科におけるコミュニケーション能力の向上を図る。

➢実施内容:

①国語の授業で指導している「文章の書き方・話し方」等の単元を踏まえ、英語の授業におけるスピーチやプレゼンテーションの原稿作成や発表に役立てる。

【例】国語科「図表を使って伝えよう『私』の説明文」(中1)の単元で学んだことを、環境問題に関する問題提起を図表を用いて英語で説明する英語科の授業で生かす(中3)。

■中学校学習指導要領「国語」【第1学年】2内容

A 話すこと・聞くこと(1)日常生活の中から話題を決め、話したり話したりするための材料を人と交流を通して集め整理すること。

B 書くこと(2)図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。

②国語の教科書や授業で紹介された学習材(「紹介スピーチ」「グループディスカッション」「プレゼンテーション」等)を参考に、英語の発信型言語活動の教材を作る。

成果・効果

・国語科での取組を参考に英語科においても発信型の言語活動につながる指導方法や教材を作成することで、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲や表現力の向上が見られる。特に英語に苦手意識があった生徒にとっては国語で学んだことを生かして英語で表現活動ができたということが大きな自信となっている。

・国語科で指導していること(新聞記事を題材にしたスピーチ等)が、英語科での発信型言語活動に取り組みことの参考になっている。

・国語科の学習を踏まえた英語科での言語活動を通して、「言葉の持つ役割」、「伝え合うことの大切さ」等文字や文構造の違いを超えた言語そのものの価値について感じとれる生徒も見られるようになった。

課題

・生徒が英語で発表する場合に自分の考えや意見を聞き手にわかりやすく伝えたり、聞き手にとって聞きたい内容になっているか、話す内容や考えをまとめるには、国語の授業でも同様の経験を積んでおく必要がある。

・生徒が論理的にまとめた内容等を話したり、書いたりするためには、指導する英語科教員にも論理的思考力や文章力がより必要になってくる。

・今後、国語科との連携をさらに深めていくためにどのようなことができるか研究を深めていく必要がある。

平成27年度 中学校「学習指導要領・評価計画表」【英語】【3年】
 国語科「図表を使って伝えよう『私』の説明文」(中1)の単元で学んだことを、環境問題に関する問題提起を図表を用いて英語で説明する英語科の授業で生かす(中3)。

単元	学習内容	評価	評価項目(国語)	評価項目(英語)	国語と英語の連携
1	国語科「図表を使って伝えよう『私』の説明文」(中1)の単元で学んだことを、環境問題に関する問題提起を図表を用いて英語で説明する英語科の授業で生かす(中3)。	国語科「図表を使って伝えよう『私』の説明文」(中1)の単元で学んだことを、環境問題に関する問題提起を図表を用いて英語で説明する英語科の授業で生かす(中3)。	国語科「図表を使って伝えよう『私』の説明文」(中1)の単元で学んだことを、環境問題に関する問題提起を図表を用いて英語で説明する英語科の授業で生かす(中3)。	英語科「図表を使って伝えよう『私』の説明文」(中3)の単元で学んだことを、環境問題に関する問題提起を図表を用いて英語で説明する英語科の授業で生かす(中3)。	国語科「図表を使って伝えよう『私』の説明文」(中1)の単元で学んだことを、環境問題に関する問題提起を図表を用いて英語で説明する英語科の授業で生かす(中3)。

個国語との関連を記した指導計画表

個発信型言語活動教材の一例

個ポスター形式の英語発表

個発信型言語活動教材の一例

短時間学習は…各単元の内、系統性を確保するため、まとまりのある学習と、「繰り返しの学習」や「深まりのあるコミュニケーション活動」等とを関連付けながら、アルファベットの文字、語彙や表現の定着を図る。

小学校3年生外国語活動週1コマ
(Hi, friends! 1をベースにしたイメージ)

単元名	時間	題材	単元目標例	HFとの関連
Lesson 1 Hello!	3	世界の言語 挨拶	・世界には様々な言語があることに気付く。英語でのあいさつの表現に慣れ親しみ、積極的に自分の名前を言って挨拶しようとする。	1-L1
Lesson 2 I'm happy.	2	外国のジェスチャー ジェスチャー 感情・様子	・表情やジェスチャーをつけて相手に感情や様子を積極的に伝えようとする。	1-L2
Lesson 3 How many apples?	4	教え方 数	・数の言い方に慣れ親しみ、身の回りのものを積極的に数えようとする。	1-L3
Lesson 4 My rainbow	5	世界の虹の色 色 I like ~. Do you like ~?	・英語と日本語の音の違いや、色について様々な見方があることに気付く。好きなものを表わしたり尋ねたりする表現に慣れ親しむ。積極的に好きなものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L4 1-L5
Lesson 5 絵本教材活用単元	5	動物の鳴き声の聞こえ方 動物・体の部位 位置	・言語によって動物の鳴き声の表し方が違うことに気付くとともに、動物、体の部位、位置の言い方に慣れ親しみ、まとまりのある話を聞いてその概要を理解しようとする。	2-L7
Lesson 6 This is my favorite.	4	食べ物・野菜 What do you like?	・食べ物や色などの言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、積極的に何が好きなかを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 7 My name	4	アルファベット大文字 What do you want?	・アルファベットの読み方や、何が欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、積極的に欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 8 Welcome to our museum	4	形・色 形状を表す語 What do you want?	・欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、積極的に欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 9 Who am I?	4	動物 形状・様子を表す語	・動物や形状・様子を表す語に慣れ親しみ、あるものを説明したり、あるものについて尋ねたりしようとする。	1-L7

小学校4年生外国語活動週1コマ
(Hi, friends! 1をベースにしたイメージ)

単元名	時間	題材	単元目標例	HFとの関連
Lesson 1 Nice to meet you.	4(4)	世界の言語・挨拶 アルファベット小文字 What do you want?	・様々な挨拶の仕方があることに気付くとともに、初めてであった人との挨拶の仕方に慣れ親しむ。	1-L1
Lesson 2 Turn right.	4(8)	外国の学校 教室 学校	・学校の中のものや教室名の言い方に慣れ親しみ、積極的に友達を案内しようとする。	2-L5
Lesson 3 How many?	4(12)	昆虫・動物 身の回りの物 How many?	・身の回りのものや数の言い方に慣れ親しみ、身の回りの物の数を積極的に尋ねたり答えたりしようとする。	1-L3
Lesson 4 What's this?	5(17)	アルファベット大小文字 What's this?	・世界には様々な文字があることや、身の回りにはアルファベットの文字で表されているものが多いことに気付く。身の回りのものや、あるものが何かを尋ねる表現に慣れ親しみ、積極的にあるものが何かを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L5
Lesson 5 Good morning!	5(22)	動作 気持ちを表す語	・動作や気持ちを表す言い方に慣れ親しみ、まとまりのある話を聞いてその概要を理解したり、積極的に場面にあったセリフを言ったりしようとする。	2-L7
Lesson 6 This is for you.	4(26)	アルファベット大小文字 身の回りの物 What ~ do you like?	・アルファベットの文字の読み方や身の回りのものの言い方、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、積極的に何が好きかを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 7 Ten years!	4(30)	気持ちを表す語 身の回りの物 職業 It's ~.	・気持ちを表す語や身の回りの物の言い方に慣れ親しみ、積極的に大事にしているものについて紹介したり、聞いたりしようとする。	1-L2
Lesson 8 What's this? Quiz Show	5(35)	動物 形状を表す語 色・形状 What's this?	・形、色、形状等の語いやそれらに関する表現に慣れ親しみ、あるものについて積極的に説明しようとする。	1-L7

短時間学習は…各単元の内、系統性を確保するため、まとまりのある学習と、「繰り返しの学習」や「深まりのあるコミュニケーション活動」等と関連付けながら、アルファベットの文字、語彙や表現の定着を図る。

小学校5年生外国語年間70コマ				
単元名	時間	題材等	目標例(二重下線部は、HFに設定されていない部分)	中・小の別添(フリスコ別添)
Lesson 1 Hello, everyone.	5(5)	挨拶・自己紹介 I like/don't like ~. 反応	・自分のことについて <u>簡単に紹介できるようにする</u> とともに、自分のことについて相手意識をもって伝え合おうとする。	1-1L1 ③
Lesson 2 Do you have "a"?	8(13)	身の回りの英語表記 アルファベット大小文字 Do you have ~?	・身の回りにはアルファベットの文字で表されているものが多いことや、 <u>アルファベットには読み方と音があることに気付き、アルファベットの文字を読んだり、あるものを持っているかどうかを尋ねたり答えたりすることができるようにする</u> とともに、積極的にアルファベット表記に関するクイズについて <u>アルファベットの文字を読んだり書き写したり</u> 、あるものを持っているか尋ねたり答えたりしようとする。(別資料:青字部分のねらい達成補完のための短時間学習を含む本単元計画)	2-1L1 ④
Lesson 3 When is your memorial day?	8(21)	月日・季節 When is ~? Why?	・世界には様々な行事があることに気付き、 <u>日程を尋ねたり答えたりすることができるようにする</u> とともに、 <u>自分の大切な日について理由を含めて積極的に伝え合ったり、丁寧にアルファベットの文字を書き写したりしようとする。</u>	2-1L2 ④
Lesson 4 This is ME!	8(29)	スポーツ・楽器 身の回りのもの・動作 I can ~. Can you ~?	・人それぞれであることに気付き、 <u>物語のあらすじを聞き取ったり、できることを尋ねたり答えたりすることができるようにする</u> とともに、自分のできることやできないことを積極的に伝え合い、 <u>丁寧にアルファベットの文字を書き写そうとする。</u>	2-1L3 ④
Lesson 5 Turn right.	7(36)	建物 道案内 Where is ~?	・世界の町の様子から日本との相違点に気付き、 <u>道を尋ねたり、道案内したりできるようにする</u> とともに、相手意識をもって道案内したり、 <u>正確にアルファベットの文字を書き写したりしようとする。</u>	2-1L4 ④
Lesson 6 This is our town!	8(44)	自然 食べ物 特産物等 This is ~.	・自分たちの町の様子から、世界との共通点に気付き、 <u>自分たちの住む町について伝え合うことができるようにする</u> とともに、自分たちの住む町のお薦めを相手意識をもって紹介しようとし、 <u>正確にアルファベットの文字を書き写したりしようとする。</u>	新規 ⑧
Lesson 7 My school schedule	8(52)	教科名 曜日 身の回りのもの I study ~ on Monday.	・世界の同年代の子供の学校生活から自分たちとの相違点や共通点、 <u>単語はアルファベットの文字がまとまってできていることに気付き、日程を尋ねたり答えたり、学校生活について説明し、あつたり、正確にアルファベットの文字を書いたりできるようにする</u> とともに、お気に入りの時間を入れた時間割を積極的に伝え合ったりしようとする。	1-1L8 ③
Lesson 8 Healthy menu	8(60)	食べ物 食習慣 What would you like?	・世界には様々な食生活があることに気付き、 <u>丁寧に欲しいものを尋ね、答えたり、正確にアルファベットの文字を書き写すことができるようにする</u> とともに、健康に良い食事について、積極的に伝えようとする。	1-1L9 ④
Lesson 9 We are good friends.	10(70)	世界の童話 日本の童話 Let's ~.	・世界には子供たちに様々な願いを込めて書かれた童話等があることや、 <u>アルファベットの文字がまとまって単語になることに気付き、まとまった英語の物語を聞いて、内容がわかり、場面に合ったセリフを言ったり、正確にアルファベットの文字を書き写すことができるようにする</u> とともに、積極的に英語で物語の内容を伝えようとする。	2-1L7 ④

【短時間学習の例・イメージ】
例えば、Lesson 3
自分の大切な日について

○季節・月日などの語彙や日程を尋ねたり答えたりする表現を使うことができる。

主な目標と活動例

- ・「チャッツ」を通して、季節・月日などの単語に慣れる。
- ・「ステレオゲーム」を通して、月日などの単語や日程の尋ね方を使うようにする。
- ・補助教材ワークシートなどを活用してアルファベットの文字を丁寧に書き写すようにする。

この短時間学習を45分+15分で60分として、意味のある場面設定の中で、「深まりのあるコミュニケーション活動」等をするこも考えられる。

小学校6年生外国語年間70コマ				
単元名	時間	題材	目標例	中・小の別添(フリスコ別添)
Lesson 1 Hello, nice to meet you.	5(5)	挨拶 自己紹介 I'm ~.	・世界には様々なあいさつの仕方があることに気付くとともに、 <u>簡単なやりとりをして自分について伝え合ったり、自分の名前を正確に書いたりすることができるようにする</u> とともに、自分について相手意識をもって伝えあつたりしようとする。	1-1L1 ③
Lesson 2 This is our school.	8(13)	教室名 身の回りの物 形状・気持ちを表す語 I like ~.	・世界の子供たちの生活から自分たちとの共通点や相違点に気付くとともに、 <u>自分の学校について簡単に説明したり、学校名を正確に書いたりすることができるようにする</u> とともに、 <u>自分たちの学校について自分の考えを積極的に伝えあつたりしようとする。</u>	2-1L4 ④
Lesson 3 Let's go to Italy.	8(21)	世界の国々 生活 I want to go to ~.	・世界の国々の様子から日本との共通点や相違点に気付き、 <u>行ってみたい国についてその理由とともに簡単に説明したり、国名を正確に書き写したりできるようにする</u> とともに、お薦めの国について相手意識をもって伝えあつたり、 <u>単語を推測して読んだりしようとする。</u>	2-1L5 ④
Lesson 4 Welcome to our country.	8(29)	日本の特徴 ~ is ~.	・日本の様子から世界の国々との共通点や相違点に気付き、 <u>日本について伝えることができるようにする</u> とともに、 <u>日本の良さについて自分の考えを相手意識をもって簡単に紹介し、単語を正確に書き写したり、推測して読んだりしようとする。</u>	新規 ⑧
Lesson 5 What time do you get up?	8(37)	一日の生活 時刻 I get up at 7:00.	・世界の人人々は様々な生活の中で精一杯生活を営んでいることや、時差があること、 <u>英語と日本との表記の仕方の違いに気付き、自分の一日の生活について伝え合うことができるようにする</u> とともに、自分の大切にしている時間について積極的に伝え合い、 <u>単語を正確に書き写したり、推測して読んだりしようとする。</u>	2-1L6 ③
Lesson 6 A letter to	8(45)	動物 ~ is chasing ~.	・世界の様々な課題や、 <u>英語の語順に気付き、まとまった内容の話を聞いて理解し、自分のできることを伝え合い、単語を正確に描き写したりできるようにする</u> とともに、世界の様々な課題に対して自分ができていることを積極的に伝え合ったり、 <u>単語を推測して読んだりしようとする。</u>	2-1L3-L7 ⑧
Lesson 7 My memorial event	8(53)	学校生活 My memorial event is ~.	・世界の学校生活の様子から日本との相違点や共通点に気付き、 <u>6年間の小学校生活について自分の考えを伝え合ったり、単語を正確に書き写したりすることができるようにする</u> とともに、 <u>思い出に残る行事についてその理由を含めて積極的に伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする。</u> (下線部のねらい達成補完のための短時間学習を含む本単元計画)	新規 ⑧
Lesson 8 What do you want to be?	8(61)	職業 気持ちを表す語 I want to be a teacher.	・世界には様々な夢をもつ同年代の子供たちがいることに気付き、 <u>つきたい職業について伝え合ったり、単語を正確に書き写したりできるようにする</u> とともに、自分の将来について積極的に伝え合ったり、 <u>単語を推測して読んだりしようとする。</u>	2-1L7 ④
Lesson 9 Junior High School Life	9(70)	中学校生活 I want to enjoy ~.	・ <u>中学校生活についてのまとまった話を理解し、自分の考えを表現したり、単語を正確に書き写したりできるようにする</u> とともに、 <u>中学校生活の期待について相手意識をもって簡単なスピーチをしたり、単語を推測して読んだりしようとする。</u>	新規 ⑧

【短時間学習の例・イメージ】
例えば、Lesson 6
学校行事について

主な目標と活動例

- 思い出の学校行事について自分の考えを表現するとともに、思い出の学校行事名を正確に書き写すことができる。
- ・「学校行事かるた取りゲーム」を通して、学校行事を表す単語に慣れる。
- ・「チャッツ」を通して、行事の言い方を使えるようにする。
- ・「学校行事名の文字をなぞる」活動を通して文字を正確に書き写すようにする。

この短時間学習を45分+15分で60分として、意味のある場面設定の中で、「深まりのあるコミュニケーション活

主な効果

※現時点に関する内容

- 国語と英語の音声の違いなどに気付かせることで、英語の音声の特徴をより理解して発音しようとする姿が見られる。
- これまで音声を中心に慣れ親しんだ語彙や表現を可視化した教材の活用を通して、児童が日本語と比較しながら、英語の文構造について気付く姿が見られる。
- 国語科での取組を参考に英語科においても発信型の言語活動につながる指導方法や教材を作成することで、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲や表現力の向上が見られる。特に英語に苦手意識があった生徒にとっては国語で学んだことを生かして英語で表現活動ができたということが大きな自信となっている。

課題

- どの段階で、語順の違いなど文構造への気付きを促すか、どの程度まで促すかなどについて検討が必要である。
- 具体的な指導例や対応した教材、それらを活用するための研修などが必要である。
- 小学校では、学級担任が全教科等を指導することが通常であり、学級担任が国語教育の学習内容、学習活動について熟知しており、それらを外国語教育で生かす指導力、「カリキュラム・マネジメント」力が求められる。
- 中学校以降では教科担任制であるため、国語科教員と外国語科教員が互いの学習内容・学習方法などを理解し、それらを各教科内で生かすことができるよう教科の枠を超えた「カリキュラム・マネジメント」力が一層求められる。

今後の方向性

- 国語教育と外国語教育の連携については、「言葉の働きや仕組みの理解」、「育成すべき資質・能力を踏まえた言語活動」の二つの観点から整理してはどうか。
- 「言葉の働きや仕組みの理解」については、国語と英語などの言語の普遍性ととも、音声的特徴や文構造、表現方法などにおける相違性を取り上げることが考えられる。
一方、「言語活動」については、国語の教科書や授業で扱われている聞くこと・話すことの活動（体験を話す、尋ねて分かったことを紹介する、調べたことを発表する、聞きながらメモを取る、など）を参考に、扱う題材と適切に組み合わせながら外国語においても同様の活動を実施することが考えられる。
- 国語教育と外国語教育のカリキュラム・マネジメントを具体的に示してはどうか。中・高校については、両教科担当教員の互いの理解を深める（カリキュラムの共有、連携のための工夫などの協働作業など）とともに、指導の順序性、扱う言語活動の形式・話題・方法などを示した指導事例などを提示してはどうか。